

日刊建設工業新聞（2026年9月16日付2面掲載）

【建コン協 業務研究発表会開く オリコンサル優秀賞受賞】

【優秀賞】オリエンタルコンサルタンツ 内藤隼哉（LiDARセンサを活用した歩行者空間における新たな人流動線計測の手法について）

最優秀に末松菜々子氏（コパシ）

建コン協 26年度業務研究発表会



建設コンサルタンツ協会（建コン協、大本修会長）

は14日、東京都港区の赤坂インターシティコンファレンスで、2026年度「建設コンサルタンツ業務研究発表会」を開いた。応募があった144編の論文から32編を担当者が発表。最優秀賞1編、優秀賞3編、特別賞4編を選定した。写真。最優秀賞にはパシフィックコンサルタンツの末松菜々子氏が都市・マネジメント分野で発表した「自治体・交通事業者による自律的な公共交通計画策定を支援するツールの開発と実証」L INKS Mobilys」を選んだ。

業務研究発表会は、建コン協の会員企業の有志が1996年に設立したインフラストラクチャー研究会（インフラ研、大島一哉会長）と共催し、毎年実施している。

同日の授賞式で大本会長は「これからの時代は従来の建設コンサルタントの枠や技術にとらわれず、社会課題に向き合う熱意と挑戦が必要だ。発表の中にその姿勢を見ることができた」

とあいさつ。審査委員長を務めたインフラ研の清水英範副会長は「最優秀賞の末松氏の論文は公共交通計画の課題と支援策が明確に整理されていた。他の論文も防災・減災や建設分野のDXなど建設コンサルタント業界が直面する課題に正面から向き合うもので興味深い内容だった」と総評した。

建コン協の福岡知久副会長は「今日の経験を自信につなげ、建設コンサルタント業界の未来を担う原動力として成長してほしい」と激励した。

優秀賞、特別賞の受賞論文は次の通り。▽論文名Ⅱ企業（執筆者）。敬称略。

【優秀賞】

▽LiDARセンサを活用した歩行者空間における新たな人流動線計測の手法についてⅡオリエンタルコンサルタンツ（内藤隼哉）
▽ビッグデータ（人流・車両・SNS）を活用した避難情報発令の効果検証Ⅱ日本工営（松岡陽生）

▽3DGaussian Splattingを用いたインフラ現場の可視化・遠隔共有プラットフォームの開発Ⅱ大日本ガイヤコンサルタント（天羽啓太）

【特別賞】

▽機械学習に基づく全国市区町村産業連関表の整備と公開Ⅱ八千代エンジニアリング（杉本達哉）
▽AIを活用した観光地のリアルタイム道路情報・混雑予測の発信Ⅱ同（末広明穂）

▽組織横断型危機管理演習による行政連携の促進と施設への能動的支援を通じて要配慮者利用施設の避難実効性向上Ⅱ同（山内美羽）

▽生物共生型護岸におけるCO₂吸収機能の評価と設計条件の検討Ⅱ復建調査設計（西本壮汰）。